

# 棚田に吹く風



11 2010  
月号  
Vol.73  
隔月刊

## 2 特集

### 棚田と生物多様性

## 5

フォトエッセイ

棚田のあるところ

## 6

棚田・里山からのたより

棚田の景観・地酒を活かした毛原の里づくり

京都府福知山市大江町毛原地区

## 8

棚ガール

田んぼの生き物たち

## 9

棚田博士は今日も行く  
グリーンリース事業が支える棚田

新潟県長岡市法末

## 12

会員のひろば

## 14

棚田ネットワークの

かつどうノート

kamyのつぶやき

## 15

Project Report





特集

# 棚田と 生物多様性



最近巷で「生物多様性」という言葉をよく耳にしませんか。今年は名古屋でCOP10が開催されます。棚田を含めた里山が、生物多様性の持続可能なモデルとして今注目されています。生き物いっぱい棚田レポートをお届けします。

棚田の生きもの博士  
安井さんの

「棚田」と「COP10」

ひがポイント!

国連は2010年を「生物多様性年」と定めました。人類はこれまでに約175万種の生きものの存在を確認していますが、これらは全体のごく一部で、地球上には推定3千万種が、お互いにつながりあい、支えあって生きています。私たちが日々口にする食べものも、すべて生きものなのです。きれいな水や空気も、多様な生きものたちが織りなす生態系の恵みといえるでしょう。私たちが、将来も自然の恵みを楽しみながら暮らしていくためには、これらの生きものたちが健全に生きる生態系が大前提となるのです。しかし、現実には毎年4万種の生きものが絶滅していると推定されています。さらに、国連自然保護連合が身近な生きもの4万7千種について調べた結果、1万7千種（全体の36%）に絶滅の恐れがあることが分かり、レッドリストとして2009年に発表しました。



上：タガメ／下：エビネ

棚田ネットワークが進めている茂木プロジェクトのフィールドである岩ノ作棚田では、季節ごとに夥しい種類の生きものたちと出会うことができます。その中には絶滅危惧種も含まれます。タガメ、コイムシ、ホトケドジョウ、マルタニシなどです。隣接の雑木林では、キンランやギンラン、エビネも確認できています。この10月、生物多様性の保全とその持続可能な利用を主題とした「国連地球生きもの会議（COP10）」が名古屋で開催されます。先のCOP6（2002年）で「現在の生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる」という目標が合意されていましたが、残念ながらこの目標は達成できませんでした。しかし、このままでは私たちは22世紀を無事に迎えることができないでしょう。持続可能な社会の構築は、地球規模の緊急課題です。それには、これ以上の環境悪化をくい止め、自然と調和した暮らしへの移行が重要なのです。棚田は米という食べものを作るだけでなく、多様な生きものを育み、環境や国土保全機能を持ちます。「棚田は持続可能な社会のシンボル」と言われるゆえんがここにあるのです。

（棚田ネットワーク 安井一臣）

## 四谷の千枚田から

愛知県新城市  
鞍掛山麓千枚田保存会 小山 舜二



秀麗鞍掛山に降り注いだ雨は湧き水となり「四谷の千枚田」全部を潤している。そして、刈り取った稲は天日干し「はぎ架け」でじっくり乾燥させる。この、恵まれた湧き水と天日干しのお米は他に比類のない美味しさと定評がある。ただ、一戸あたりの水田面積が12アールと規模も小さく、消費者への供給がままならず「幻のこめミネアサヒ」としてうらやましがられている。

棚田の百姓は過去に農薬や化学肥料で生物をないがしろにした農法から脱皮、棚田全体をビオトープと位置づけた。モリアオガエルやヤマアカガエルを増やすことでイモリやヤマカガシがオタマジャクシを狙い、追いかけて、除草効果が生じる。また、変態してカエルになれば害虫駆除もしてくれる。今では減農薬の波及効果で薄気味悪いほど田んぼにタニシも増えた。

このように、生き物と共生した体にやさしいコメづくりに挑戦した結果、平成21年度田園自然再生コンクールにおいて農林水産大臣賞を受賞した。また、愛知県では10月に生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催される。その招致活動や、ドイツ議員団(COP9開催国)の視察、世界各国が公式エクスカーションで訪れるなど、脚光をあびる「四谷の千枚田」である。

## 鳥取県西伯郡南部町 東上金山地区の棚田

鳥取県南部町  
自然観察指導員 桐原 真希



上左：ヒダサンショウウオ（幼生）／上右：キセキレイ（オス）／下：金山の棚田

南部町は、鳥取県西部に位置する人口約1万人の町です。町境にある東上金山地区には、美しく管理されている棚田があります。平成19年から田んぼ体験の受け入れを始め、田植えや稲刈り、自然散策の場として、大阪府の都市民や町内の児童たちが折々に訪れ、地元民との交流の場に活用されています。標高約3000mの山里の田んぼは、まだ調査が十分されていないにも関わらず、ギフチョウやアカシヨウビン、ヒダサンショウウオといった絶滅の恐れのある生き物たちが、次々と確認されています。標高730mの鎌倉山からの水を源に、ため池、沢、水路、田んぼとそれぞれの水辺環境で多くの生き物たちが寄り添い、棚田の賑わいを深めているようです。特に、鳥類や両生類の生物多様性が高く、今後の観察にも期待が高まります。

田植えの後に、カジカガエルの鳴き声と、ツツドリのはいさえずりをBGMに味わう風景は贅沢そのものに。「手自然」の豊かさを象徴する棚田です。

## 国連地球生きもの会議 (生物多様性条約締約国会議 COP10)

### ■日程

2010年10月18日(月)  
～29日(金)

### ■会場

名古屋国際会議場

### ■概要

COP (Conference of the Parties) とは、国際条約の締約国が集まって開催する会議です。生物多様性条約は、1992年リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)で誕生しました。会議は概ね2年ごと、「生物の多様性の保全」「生物多様性の構成要素の持続可能な利用」「遺伝資源の利用から生ずる利益の公正で衡平な配分」の3つが主なテーマ。約190ヶ国・約7000人が今年の開催地名古屋に集い、地球環境の将来についての議論が行われる予定です。

### 【公式ウェブサイト】

<http://www.cop10.go.jp/>



## 松之山の森と棚田から

新潟県十日町市 森の学校キヨロロ  
永野 昌博

棚田というだけで生き物の楽園をイメージしてしまいがち、いろいろな棚田を歩いてみて、そのイメージが間違っていることに気が付きました。棚田が生き物の楽園であるためには、その棚田が水と森に囲まれていることがとても大切です。どれか一つでも欠けている棚田は、見た目は楽園でも、実はひどいとした廃墟のような空間でしかないのです。

棚田が楽園か廃墟かを測るものさしの一つがカエルの多様性です。両生類であるカエルは水環境と陸環境のどちらも大切で、どちらかの環境が悪くなるだけでいなくなってしまう。キョロロ近くの田んぼは、ため池、森、小川といろいろな環境に囲まれ、あまり水抜きもしない湿田のような田んぼなのですが、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ツチガエル、モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエルの9種類の声を聞くことができます。これは十日町市松之山に分布する90%もの種類にもなります（溪流性のタゴガエル1種がいないだけ）。少しカエルの暮らしに配慮した田んぼにするだけで、棚田の生物多様性はガラリとカエルことができるのです。



アカガエルを産める  
アカショウビン



トノサマガエルに噛み  
つくヤマカガシ

## 大山千枚田の生き物代表選手

千葉県鴨川市  
大山千枚田保存会 浅田 大輔

大山千枚田の生き物の代表選手ってどんなものだろうか。目の前に広がる棚田をボートと見ながら考えてみた。そしたらこんな感じだった。春になったばかりの棚田。まだ外は寒い。田んぼには水が張ってあり、田起こしが始まる。畦はまだ植物の青々とした姿が少なく、なんか寂しい感じ。でもしゃがんでみると、スミレの仲間やカントウタネポポが凛と咲いている。

水の張った水田に目をやると不思議な物体が！バナナみたいな形やモコモコした物体。小学生が「エイリアンの卵だ！」って叫んでる。いやいや、それはトウキョウサンショウウオやニホンアカガエルの卵塊。これらの両生類は、農家が春先に田んぼの準備をするのをずっと待っている。水田に水が溜まったら、その夜からカエルの大合唱。産卵に来たメスを口説くためにオスは必死に声を上げている。他にも500種類くらいの昆虫や植物がいるけど、やはりカントウタネポポやトウキョウサンショウウオ、カエル達が代表選手だと思う。

農家がお米を作るために耕している田んぼ。意識しているわけではないけど、草地であったり湿地であったり色々な生物の環境が出来上がっている。これからは、食料も生産し、色々な生物の生息環境も管理している農家が、世界の環境問題を解決する主役になると思う。



上: ニホンアカガエル  
下: トウキョウサンショウウオ

## 久木野の棚田の生き物

熊本県水俣市  
愛林館 館長 沢畑 亨

棚田の生物多様性は、実はさほどの調査もしていないのですが、ヘイケボタルが一番印象的です。夏には時々我が家に入ってきたりします。水の無くなった棚田で冬を越すのは結構大変ではないのかな。5月に中国から飛んできて棚田で増えていくウスバキトンボ（赤トンボの代表格）も、稲刈りまでは数が多いのですが、冬には全滅すると知って以来かわいそうな気持ちで見えるようになりました。

耕作断念地では、人間には不利な生物多様性もあります。仲間と草刈りをしていたら、イノシシの寝床がありました。ところどころに水の湧く元棚田ですから、泥浴びで夏の暑さをしのぎ、ダニを落とし、ミミズや葛を掘り、見通しの悪い藪で休息できる天国でありましょう。

秋にはセイタカアワダチソウが咲き乱れ、葛と並んで「昔は人手が入ったが今は入らない土地」の指標生物になっています。現在、秋の草刈り中。少しでもイノシシに悪い環境を作り出し、人間が「まだ頑張ろう」と思える景色を作るのが目的です。棚田は山村生活の社会基盤の一つですから、山村に住みたい人がいる限りは頑張ります。



ウスバキトンボ



# 棚田の あるところ

写真と文 大塚 雅貴



## Profile

写真家

大塚 雅貴

おおつか まさたか



1968年、千葉県生まれ。1993年、写真家・野町和嘉氏の助手としてサハラ砂漠取材に同行。1997年からエジプトでアラビア語留学を経て、リビア、ニジェール、マリなどのサハラ砂漠を取材する。2004年キャノンマーケティングジャパン(株)カレンダーの撮影を担当。写真集「耕して天に至る〜中国・雲南 世界の棚田」(毎日新聞社)を出版。現在、北アフリカを中心に遺跡やサハラ砂漠の撮影を続け、雑誌や個展などで作品を発表している。

■大塚雅貴オフィシャルホームページ  
<http://www.photo-otsuka.com>

### 個 展

- 2000年「食巧の美」(中国雲南の棚田) 開催(銀座キャノンサロン)
- 2003年「砂が描く大地」(最奥のサハラを行く)開催(銀座富士フォトサロン)
- 2004年「山郷」開催(全国キャノンサロン)



先人の築いた棚田を  
守り続ける

福岡県八女市星野村の棚田

「おいしい、おむすびを食べないかい」

福岡県八女市星野にある棚田で農業を営む山口さんが声をかけてくれた。「いただきます」。おむすびを一つ口に入れると、ふっくらとして一粒一粒に粘りがあり、まろやか。山の中から昼夜の温度差があること、きれいな水がいつも上の田から下に流れていることなど、棚田のお米が美味しい理由を山口さんは話してくれた。

小川から上りはじめ、たどり着いた山の上からは黄金色に染まる棚田の光景が広がっていた。緻密につくられた石積み、等高線を描くようなあぜ道。一段一段がまるで天に上る階段のような美しい棚田。古の人たちはどんな想いでこの棚田をつくったのだろう。稲穂を刈り取る山口さんの向こうに先人たちの姿を見たような気がした。(ここでは毎年6月に田植え体験と10月には収穫体験会が行われる)



棚田・里山  
からの  
たより



# 棚田の景観・地酒を活かした毛原の里づくり

## 京都府福知山市大江町毛原地区

### 棚田や里山の活用

京都府福知山市の北部地域、酒呑童子の鬼退治伝説の舞台である大江山の麓にある、戸数12戸、人口30人の集落が「毛原地区」です。日本の棚田百選に認定された約600枚のきれいな棚田や山々に囲まれた集落の景観が残っており、平成19年8月には「丹後天橋立大江山国定公園」に指定されました。

早くから過疎・高齢化が進行し、地域住民が強い危機感をもって将来を考え語り合うなかで、平成9年には地域おこし団体と町役場とで「毛原の棚田農業体験ツアー実行委員会」を結成しました。『みんなで守ろう心ふるさと毛原の棚田』を合言葉にして、棚田の残る美しい農村風景を活かした将来構想を策定し、都市住民との交流を図る「棚田農業体験ツアー」に取り組んだことが、元氣な里づくりの始まりです。

地元では、棚田の景観保全のための散策路の整備と水車小屋の復元、東屋等を整備する事業を実施し、地域の魅力アップを図ってきました。また、体験ツアーの参加者の「棚田を守りながら棚田で米づくりをしたい、美味しいお米が食べたい」という声を受け、平成10年から「棚田オーナー制度」を開設しました。地元役員が指導・援助して都市住民がお米栽培を行うことで増加する遊休・荒廃農地の活用を図っており、この取り組みが新規定住へつながることを期待しています。

更に、平成19年からは京都府のモデルフォレスト事業により、市内の民間企業2社と協定を締結し、企業の社会貢献活動である里山保全整備事業のフィールドを提供し、つつじの森づくり、きのこ栽培など森林資源の活用と社員の方々と交流を深めています。



上：田植え後 朝の棚田／下左：5月にはこいのぼりが棚田に舞う／下中・右：棚田オーナーの稲刈り

## 毛原ってどんなところ？

丹後の最難所、大江山の峠越えの麓にある毛原集落は、奈良～平安～鎌倉にいたる中世の時代に形成された集落であると考えられています。大江山越えの裏街道としての元普甲道<sup>もとふこうみち</sup>があり、その途中にある集落として宮津（天橋立）までの旅をする人に親しまれていました。

昔の旅人はこの難所をどんな思いで行き交っていたのでしょうか。今はもう幻の峠となってしまった旧普甲峠の麓で、昔ながらの棚田を守り、自然があふれ、心暖かい人々が住む魅力あふれる集落です。

■毛原の棚田ホームページ  
「心のふるさと 毛原へようこそ」より  
<http://www12.ocn.ne.jp/~tanada/>

## ■毛原の棚田へのアクセス

【電車】JR福知山駅からKTR（北近畿タンゴ鉄道）でKTR大江駅下車、市営バス（タクシー）15分で毛原着

【自家用車】舞鶴自動車道・福知山 I.Cから国道9号、175号で大江→毛原着（舞鶴大江IC利用可）

## ■お問い合わせ

【棚田農業体験ツアー実行委員会】  
Tel.0773-56-1101  
福知山市大江支所 地域振興係



## 美の里づくり

新しい展開として、集落外の農家が毛原の遊休農地で蕎麦を栽培し、蕎麦の栽培から行う講習会や各種イベントでの蕎麦打ち体験を開催しています。また、棚田オーナーから新規定住した夫婦が、今年からログハウスを拠点にして遊休農地約50<sup>㍔</sup>でブルーベリーの摘み取り農園を開設し、都市住民との交流、地元産品の販売を展開しつつあります。

地元では集落の景観保全活動の一環として、地区を挙げてのピオトープ池の整備、遊休農地の草刈り作業のほか、女性が中心となり

## 棚田米で造った地酒が好評

こうした毛原地区の里山景観と、これまでの取り組みが評価され、第5回（平成21年度）美の里づくりコンクールにおいて農林水産省農村振興局長賞を受賞いたしました。この受賞は今後の活動に大きな励みとなっています。

実行委員会のメンバーである「大江で地酒を造る会」では、宮津市の酒造会社の協力を得て、地元大江町内と体験ツアーで栽培した酒米の「五百万石」を使った地酒、

純米吟醸生酒の「大鬼<sup>おおたに</sup>」を醸造しており、絶妙のフルーティな香りと味はニューヨーク、サンフランシスコ、香港など海外でも大好評を得ています。

記録的な猛暑の夏が過ぎて酒米五百万石の収穫も終わると、もうすぐ新酒の仕込みが始まります。地酒を嗜好する者にとっては今年の出来栄えが気にかかるこの頃です。毛原地区は小さな集落ですが、多くのみなさんのご理解とご協力を得て、これからも住む人が元気できらりと輝く毛原の里づくりを進めていきます。

棚田農業体験ツアー実行委員会  
事務局長 櫻井 一好



左：ロサンゼルス「大鬼」試飲会  
右：香港「大鬼」試飲会



# 棚 ガール Tana Girl

Vol.1

東京都武蔵野市

薬師寺 あゆみ (30歳)

そんな女性を紹介するコーナーです!!

棚田の虜になった乙女、通称「棚ガール」



上:星野村での田植え/下:栃木県茂木での稲刈り



私は「緑のふるさと協力隊」という、農村に興味がある若者と地域活性化をめざす地方自治体を繋ぐプログラムで、一年間、福岡県星野村(現・八女市)で生活をしました。そこで村中に広がる石積み棚田に出会い、その迫力に圧倒され、季節ごとに変化する美しい姿に魅了され、気付けば棚田の虜になっていました。人生で初めての田植えと稲刈りが、棚田百選にも選定されている星野村・広内地区の棚田でした。そのほとんどが人の背よりも高く石が積み上げられ、急傾斜にあるため狭くて細長く、作業は危険と隣り合わせで大変なものでした。しかし、上を見上げて下を見下ろしても段々に続く田んぼの風景と、素足で感じる泥の感触はとても気持ちがよく、生涯忘れられないものとなりました。

棚田を眺めていると、長い歴史や汗を流してきた先人たちの息づかいが聞こえてくるような気がします。そして、ずっと守っていかなければいけない大切な財産だと強く感じます。

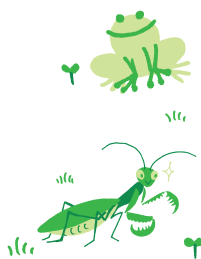
星野村での生活を終え東京に帰った今でも、栃木の茂木や千葉の鴨川で、農業体験を通してマイペースに棚田と付き合っています。作業はもちろん、現地の農家さんや参加者との出会いも楽しみに参加しています。これからも時間の許す限り、大好きな棚田へ足を運びたいです。

田んぼの  
生き物たち

第22回  
コバネイナゴ



写真: 桐原佳介



晩秋、朝夕の寒さに耐えたバッタの仲間たちが、あちらこちらで交尾しているのが観察されます。そんな中で、コバネイナゴは、農家の方にとって稲の害虫として、大なり小なりやっかいな虫。日本人は、いにしへの知恵で、このコバネイナゴなどを食べることににより、食材利用と害虫駆除の二役を見いだしました。それが「イナゴの佃煮」です。砂糖や醤油、水飴などで甘辛く煮て、長期保存ができ、さらには、良質のタンパク質とミネラル分も摂取できるヘ

イナゴの仲間が少なくなり、一方で、放棄されて間もない休耕田は逆に増え、さらに長期間放置され背丈を超える数になった田んぼでは、彼らは生息しにくいようです。草刈りなどで適度に環境へインパクトを与えられ、丈の低い草地がちょうどいい塩梅が残ってきたことが、田んぼのまわりの小さな虫たちの拠り所になっているのかもしれません。さて、みなさんの回りにはどんなバッタがいますか?

(自然観察指導員 桐原真希)



# 棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の  
全国棚田行脚

## グリーンリース事業が支える棚田

新潟県長岡市法末



なかしま みねひろ  
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO  
法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会  
長。全国棚田(千枚田)連絡協議会理  
事、棚田サミット開催地選定委員会委員  
長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大  
学教育学部地歴科卒。2004年まで早  
稲田大学教育学部教授。著書に『日本  
の棚田—保全への取り組み』『百選の棚  
田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』(以  
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に  
ついての執筆準備のため全国行脚中。



長岡市は新潟県のほぼ中央にあ  
り、人口では新潟市、面積では上  
越市に次ぐ第2の都市である。平  
成の大合併で9市町村を合わせ、  
越後平野のほか魚沼・頸城の丘陵  
部を領域とするようになった。法  
末は、旧小国町の東端、頸城丘陵  
の北東部、丘陵の頂上近くに集落  
があり、中越地震の被災地である。

2009年12月上旬、6月につ  
づいて法末を再訪した。新幹線の  
長岡駅から1日12便の運行がある  
越後交通の小国車庫行きのバスに  
乗り、法末へ向かう。バスは、国道  
351号を西へ、市街地を抜け信  
濃川に架かる長生橋を渡る。下山  
の交差点を右折、国道404号を  
辿り、頸城丘陵を目指して越後平  
野を南下する。しだいに丘陵が迫  
り、大きな社のある越路原の丘陵  
を左に見ながら渋海川、それに並  
行する信越本線に沿って走る。塚

山駅が行程のちょうど半分、ここ  
から渋海川に刻まれて形成された  
谷底平野を上流へと向かって遡る。  
乗車してからおよそ1時間、小国  
車庫のある檜沢集落に到着する。

### 棚田の間に点在する法末の家々

檜沢からさらに南へ、谷底平野  
の上岩田、野田とつづく集落を過  
ぎ、1キロほど歩くと太郎丸の集落が  
ある。ここから方向を東に転じ、渋  
海川の支流小国沢川に沿い丘陵地へ  
向かう。太郎丸の標高が90メートル、目指  
す法末の最高点は280メートル、およそ  
200メートル上らなければならない。

法末の集落は、丘陵斜面の標高  
180メートルから280メートルにあり、高低  
差100メートル、東西700メートル、南北1  
キロの広がりの中に42戸の民家が点  
在している。このため、集落の用事

で全戸を廻るのに、たつぷり1時間  
はかかるそう。民家が集中してい  
ないのは、丘陵の頂上近くにありな  
がら、豪雪地であるためか、深さ4  
メートルほどの縦井戸により、あるいは横  
井戸で飲料水がえられることによる  
ものと考えられる。各家は思い思い  
の高さに、それぞれ独立して屋敷を  
構えている。

棚田は、これら民家と民家の間  
を埋めているが、森や丘に隔てら  
れそれぞれが独立し、いくつかの  
小さな団地になっている。峠直下  
の棚田は10枚程度、山際の1枚が  
最も大きく5アールほど、土坡の法面  
の高さも3メートルはある。その下に同



じくらしいの棚田が1枚、法面の高さが2㍎、さらにその下に1㍎から4㍎の大きな棚田が6枚つながっている。峠直下の北側には山際に10㍎と8㍎の比較的大きな棚田が横たわり、高さ4㍎5㍎の法面の下に広さが2㍎4㍎の棚田が6枚並んでいる。これら棚田の彼方には頸城の名山といわれる姿のよい黒姫山と米山が左右にわかれ立っていた。

峠直下からさらに数十㍎下には3列になった棚田があり、各列2㍎3枚、7㍎の広さのものをのぞくと2㍎3㍎の大きさ、法面の高さは1㍎にも満たない低さ。全体としては平場の水田に近い感じがする。集落中央部、水車と炭窯の熱を利用した足湯のある地区の棚田が最も広い面積を占める。20枚近くの棚田があり、1枚が1・5㍎から8㍎まで大きささまざまなが、2㍎3㍎の広さの田圃が多い。法面の高さは1㍎2㍎、森と民家に囲まれている。これより数十㍎高い営農センターの前には1枚が5㍎6㍎の広さの棚田が4枚ほどある。このように棚田は高さを変えて分散しており、峠を越えた小千



谷側や集落の南斜面、小国沢川上流の河谷などにも棚田がみられる。灌漑水は湧水や渓流水、長さ20㍎の横井戸などに依存し、個人用の溜池も各所にみられる。また、中山間地域等直接支払制度の補助金は全額集落で留保、農道整備に使用されているという。このため、ほとんどの農道が舗装され、米作意欲の高さが感じられる。

### 集落の暮らしと中越地震の影響

法末では集落のキーマン、営農組合の副組合長、振興組合の組合長も務める大橋昭司さんに会った。大橋さんは72歳、66歳の奥さんとの二人暮らし。鉄工所と農業経営を両立させてきた自営兼業農家である。しかし、工場は今年7月から不況で閉鎖



上：稲刈り後に代掻きをする、頸城地方の「秋田(あきだ)」／中：棚田を見下ろす足湯／下：お米の貯蔵施設

中とのこと。好況時には奥さんのほかパートの女性を4㍎5名雇うほど忙しかったそうだ。

耕地は棚田80㍎を所有、現在70㍎にイネ、10㍎にウドを栽培。耕作している棚田8枚は、15㍎が2枚、10㍎が2枚、5㍎が4枚で比較的面积が大きい。これは1980年代に自力で3㍎4枚を1枚にする畝町直しを行った結果であり、それによりトラクター(15馬力)、乗用田植機(4条)、乗用コンバイン(2条)での耕作が可能になった。

震源地に近かった中越地震では、第1夜は戸外、第2㍎5夜を車内あるいは交流施設である「やまびこ」前の広場に張ったテント、その後40日間は小国町の中央公民館で過ごし、それから3年間は小国

町の七日町に設けられた仮設住宅で暮らした。道路の復旧が遅れたため、すぐに帰村することはできなかったが、地震後4日目には軽トラが走れる仮設道路が開通。これにより比較的被害が少なかった家屋の修理や耕地、ことに農道の復旧を行うことができたのでイネ作りを休むことなく継続できた。しかし、地震後帰村したのは54戸のうちの42戸、その分耕地の荒廃が進み廃屋が多くなった。

### 法末を支える、グリーンリースとやまびこ

そんななかで、棚田の耕作を続けるのに力になっているのが当地で「グリーンリース」と呼ばれるオーナー制(注)だとおっしゃる。小



## 法末自然の家 やまびこ



1980年代後半に廃校となった法末小学校が利用され、畳部屋の客室・調理室・食堂・男女別浴場・会議室などを備えた50人収容の宿泊施設「自然の家」に改装された。宿泊料金は2食付きで5,500円、年間の利用客は1,200名を超えるという。田植え・稲刈り体験のオーナー、山菜採りのグループ、スポーツの合宿、大学のゼミ合宿、中学生の受験合宿、PTAの会合、法事、茶会、囲碁の会の合宿など多様な客を受け入れている。

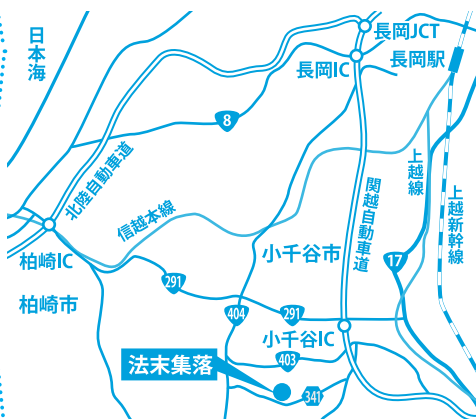
■法末集落ホームページ

「法末集落へようこそ」<http://hosue.jp/>

国町では行政主導により1992年に山野田、1993年から法末で事業が始まり、一口当たり会費9万円、面積5<sup>㍔</sup>、玄米180<sup>㍏</sup>保証、特典田植え・稲刈り体験の条件でオーナーの募集が行われた。法末では当初から70口前後の応募があり、乾燥機・糶摺機・精米機・識別機などの機械類や貯蔵タンク（120俵分）を備えた全額補助施設の営農センターに支えられて事業が定着した。

事業は市町村合併により2004年に終了、その後は応募条件を変更し法末営農組合に引き継がれ発展している。条件は、保証を玄米1<sup>㍏</sup>当たり普通栽培米500円、特別栽培米550円の会費として選択させることにした。2009年度の実績では、組合に参加する9戸が普通栽培米5<sup>㍔</sup>720<sup>㍏</sup>の66口、合計9005<sup>㍔</sup>、5戸が特別栽培米5<sup>㍔</sup>210<sup>㍏</sup>、合計3095<sup>㍔</sup>の36口のオーナーを引き受けている。オーナーは半分近くが東京都で、首都圏に住む人が4分の3を占めている。一方受け入れる農家は平均1戸当たり、普通栽培米約1000<sup>㍏</sup>、特別栽培米619<sup>㍏</sup>を提供、両者に関わ

### 法末集落へのアクセス



国道404号線を南下し、太郎丸集落で東に折れ、県道341号を小国沢川沿いに4kmほどさかのぼると山間部に、法末集落が見えてきます。

【自家用車】関越自動車道小千谷ICより20分、北陸自動車道柏崎ICより25分

【公共交通】JR長岡駅から小国車庫までバス(越後交通)で1時間15分、小国車庫からタクシー 10分

る農家は1戸当たり約84万円の粗収入になる。これは、稲作意欲を刺激するに足る金額であり、大橋さんがおっしゃるように組合員の励みになっている。

法末を元気にしているもう一つの取り組みが「法末自然の家やまびこ」である。その経営は1990年に法末の全戸が10000円ずつの出資金で設立した法末振興組合が担い、大橋さんが3代目の組合長である。組合は施設の指定管理者になり、市から270万円の委託料を受けて運営に当たっている。この取り組みにより、賄いを引き

受ける組合員の主婦に時給750円の小遣い稼ぎの仕事を創出、また収益の一部は農道の整備に利用されているようだ。このように、法末は平坦地の中心集落から遠く離れ、孤立しているにもかかわらず、その独自の取り組みにより活気が感じられる集落である。

### \*注

オーナー制は、1992年の農地法の改正により都市住民が農地を借りることができるようになってから出現した制度である。これには、都市住民の農業体験あるいは作業参加を重視する棚田オーナー制と、飯米確保を重視するグリーンリース事業があり、前者は高知県梹原町(ゆすはらちよう)、後者は新潟県旧小国町で誕生した。



## 会員の声

### 水辺とトンボの関係について

千葉県・館山市 齋藤 舜貴

水辺にすむ昆虫の代表として、トンボがいます。歌にも歌われている程身近な存在です。そんなトンボですが、生まれてすぐに大空を飛びまわれるトンボになるわけではありません、卵から生まれたのは水中で過ごしている「ヤゴ」なのです。

ヤゴは一年で成虫のトンボになる種類もありますが、日本にしか分布していないムカシトンボというトンボはヤゴで過ごしている期間が世界一長いのです。なんと、8年間も水中で暮らしているのです。

みんなに親しまれているオニヤンマやギンヤンマなども一年で成虫にはなりません。ヤゴで数年間くらしただ、成虫となり、大空を飛びまわれるトンボになるのです。

トンボは「トンボ」の姿でいるよりも実は「ヤゴ」です。この期間の方が長いということです。トンボを知るには、まずは、ヤゴがくらししている水辺の環境を知ることが大切ということになると思います。

水質がきたなくなるとヤゴがすみづらくなってしまい、ヤゴは少なくなってしまうか、いなくなってしまうでしょう。当然ヤゴが少なくなってしまうとトンボも少なくなったり見られなくなってしまうでしょう。水質だけで



はありません。人間の都合で、池や川を整備しすぎてしまうと、ヤゴの住む場所がなくなってしまう、やはりトンボも見られなくなってしまうでしょう。

ヤゴからトンボになれたとしても、水辺の草がきれいに刈られ、あのぶんぶんとうるさい「蚊」などが少なくなってしまうとトンボのえさ不足となって生きていられません。トンボが益虫(人間に利益を与える昆虫)と呼ばれている理由は、害虫を食べてくれているからですが、そのえさが少なくなれば、えさを求めてトンボたちは、羽をはばたかせて、飛び去って行ってしまうでしょう。

「青いお空」や「夕やけお空」へ、たくさんのトンボたちを、ぼくはいつまでも飛ばせ、そして見せてあげられる水辺の環境を守ってあげたいと思っています。

齋藤舜貴(さいとう くん)は、現在、中学一年。小学2年から生きもの調査に参加、棚田ネットきってのトンボ通。生きもの調査ではトンボの解説者。将来の夢は昆虫学者。

## 会員のひろば



### 会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!「ご要望、感想やご質問でもOK!」(会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて)〒160-0023 東京都新宿区西新宿七-18-16 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛メールでも受け付けています ↓ [hiroba@tanada.or.jp](mailto:hiroba@tanada.or.jp)



### 会員のBest Shot!

#### 会員のみなさんのベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます!送り先は下記。

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿7-18-16  
トーシンハイム704号  
「棚田に吹く風 ベストショット」宛  
メールでも受け付けています  
⇒ [hiroba@tanada.or.jp](mailto:hiroba@tanada.or.jp)



#### 晩夏の野焼き

神奈川県川崎市  
タナ吉

夏の終わり、稲穂も出始めた頃、草刈り後の枯れ草を野焼きしました。大きく成長した稲をつつみ込むように、ゆらゆらと流れいく煙が、霧のようにも見えて幻想的な光景を作り出していました。(静岡県松崎町 石部棚田)

## 棚フェス準備着々？進行中…

第5回となる今年の特徴は、なんといっても「二日間開催」になったことです。一日目は金曜日で平日なので、来場者や保存会相互の交流に力点を置き、二日目の土曜日は多彩なアトラクションを採り入れて“フェスティバル”らしく賑やかに、と考えています。新しい保存会やおなじみの保存会など、棚田関係者が東京にこれだけ集まる機会は滅多にありません。直に話のできるチャンスです！

そしてもう一つが、プレイバント（写真展）の開催。ほぼ1カ月前から、公募した棚田写真を展示。同時に、今年がCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）の年であることから、生物多様性の保全にとって大変価値のある棚田・里山地域を維持することの大切さをパネルなどで紹介する予定です（この会報が皆さんの手元に届く頃には、展示は既に始まっているわけですね！）。



会場となるのは、東京・神宮前の国連大学ビルの中にある「地球環境パートナーシッププラザ」。毎週土曜日にはすぐ目の前でファーマーズマーケットも開かれていますので、会場の下見がてら、まずは写真展を見にお出かけください。

そしてもちろん、事前準備や当日にお手伝いいただけるボランティアスタッフを大募集中です！皆さんのところへ実行委員会から直接お願いが行くかもしれませんので、どうぞよろしくお願いします！！

（棚フェス実行委員会・高野）

## 編集部イチオシ! BOOK & Movie



### 牛の鈴音



2008年／本編78分  
韓国  
¥5,040（税込）  
販売元：パップ

79歳になる農夫のチェ爺さんには、長年一緒に働いてきた牛がいる。周りの農家が耕作機械を使う中、チェ爺さんは頑固に牛と畑を耕し続ける。牛の寿命は15年というのに、この牛は40年も生きています。獣医に「そろそろ寿命だ」と告げられたチェ爺さんは、献身的に牛の面倒を見続け、遂には自分の体調まで崩してしまふ。イ・チュンニョル監督が3年の歳月をかけて撮影し、韓国で300万人の動員を記録したドキュメンタリー。



### Kotoba (コトバ) 創刊号



¥1,400（税込）  
集英社 季刊雑誌  
2010年10月創刊

「多様性を考える言論誌」を理念に掲げ、フィクション以外の人文・社会科学や自然科学など、ジャンルにとらわれない幅広いテーマを扱う雑誌。創刊号の特集は、10月に名古屋で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に合わせた「生物多様性はなぜ必要なのか」。100ページにも及ぶ総力特集でかなり読みごたえがあります。特に、COP10にも提案される「SATOYAMA イニシアティブ」は、私たち棚田関係者にも必読の記事です。



咲き誇る彼岸花と稲穂の共演を  
想像しながら…

2010年9月10日 報告 山浦 陽一

うきは市は福岡県の南東部に位置し、市の北部に筑後川が流れる。それに対し南側が山地で、棚田百選にも選ばれた「つつら棚田」もその山間にある。

まず市役所でお話を伺った後、「つつら棚田を守る会」の米川さんに現地をご案内頂いた。つつら棚田は、約6ha、300枚。かつて50戸を数えた集落の農家も現在は5戸、平場からの通作3戸、そして「守る会」でこの棚田を守っている。調査日の9月10日もまだ猛暑。有名な彼岸花はまだだいぶ先。

13年目を迎えたオーナー制度に加え、大学との連携による宿泊施設の整備の計画など、夏に負けない熱い活動が展開する。



石部棚田のホームページとパンフレット  
制作に協力～情報サポートチーム～

2010年6月～9月 報告 高桑 智雄

情報サポートチームでは、静岡県松崎町が第16回全国棚田(千枚田)サミットを開催するにあたって、その舞台となる石部棚田のホームページ/リニューアルとパンフレットの制作に協力しました。ホームページの目玉は、何といても保存会メンバーの顔写真と一言インタビュー!

そして、パンフレットの目玉は、手書きイラストによる棚田てくてく散歩マップ! いずれも、棚田ネットスタッフならではの視点と地元との密なコミュニケーションを元に制作しています。ぜひご覧になってください。



[www.ishibu-tanada.com](http://www.ishibu-tanada.com)

棚田ネットワークの  
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネット  
ワークのスタッフの活動や事務  
局のことなどを幅広くお伝えし  
ていきます。

Kamyの  
【カミー】  
つぶやき



つぶやき人  
事務局スタッフ カミー  
(所沢市在住)

事務所の日課は電子メールチェックで始まります。毎日届く多数のメールとともに、おびただしい迷惑メールに悩まされています。  
「info@xxx.xx.jp」という公開アドレスなので覚悟はしていますがウンザリです。検索ロボットによる公開アドレスの収集や個人情報漏えいリストを入手して無差別に送信しているようです。  
迷惑メールは国内外の英文メールが圧倒的で、対応としてメールサーバに入り込み事務局長が毎日削除しています。英文のタイトルだけを見て削除していますが、幸いなことに棚田ネットワークは海外団体とのチャネルを持つていまして無条件に消しても実害はありません。海外赴任中の会員さんや海外旅行中の「info@」宛て送信には和文のタイトルを望みたいです。  
個別のパソコン側での対応としてフィルタリングをきつくすると必要なメールも迷惑メール箱に放り込まれることになり、ある理事からのメールは迷惑メール箱によく入っています。  
カミーの使っている私的アドレスには迷惑メールは滅多に来ません、百通に1通位の割合でしょうか? プロバイダーがしっかりブロックしてくれます。公開アドレスは諦めるしかないのか? 最近の実例では受信百通のうち平均71通が迷惑メールで占められていました。  
ついでに、もうひとつ腹立たしいのは迷惑FAXです。無断で送りつけ、他人のFAX用紙に勝手に印刷。無駄にされた紙はどうしてくれるのだ! (怒り)



■ ブログ「棚田に吹く風」  
<http://tanada.sblo.jp/>



迷惑だ〜!



## 栃木県茂木町

### 茂木プロジェクト

#### 岩ノ作棚田の稲刈りが 終わりました



参加者のみなさんおつかれさまでした!

9月18日、岩ノ作棚田での「体験稲刈り」が、地元・小深集落の方々の指導と応援を受け無事終わりました。参加者は総勢38名。この夏の酷暑で、稲の生育が心配でしたが、5月に植えた小さい苗は立派に育ち、たくさんの穂を稔らせていました。稲刈りでひと汗かいた後に見たノシメトンボの空中産卵（打空産卵）は感動的で、米作りとトンボの緊密な関係を理解した一瞬でした。

1株1本植え、2本植え、3本植えをした実験田の稔りも素晴らしく、参加者からは「一粒の種モミから、こんなにたくさんのお米ができるの!」、という感嘆の声がしきりでした。現在、30株の稲穂を事務所に持ち帰り、稔りの詳細を調査中です。その結果は11月の棚田フェスティバルで発表の予定になっています。

昼食の後は、しばしの棚田・里山散策。ススキが穂を出し、キバナアキギリ、ワレモコウ、ツリフネソウ、キンミズヒキ等など、たくさんの秋の野の花が、ほころび始めていました。秋はすぐそこまで来ています。（安井 一臣）

## 岐阜県恵那市

### 棚田ビオトープ プロジェクト

#### 棚田カフェ開催と 棚田ビオトープ稲刈り



棚田ビオトープでの稲刈り

棚田オーナー制度の稲刈りと同日の9月25日（日）、午前10時から午後3時まで坂折棚田のなごみの家にて第2回「棚田カフェ」を開催しました。これは棚田景観保全のためのワンデー・チャリティ・カフェで、その収益を恵那市坂折棚田保存会に寄付するもの。フェアトレードのコーヒー・紅茶、坂折棚田の緑茶にパウンドケーキがついて500円。今回のお客様は前回より少なく10名程度でしたが、午後2時から棚田ビオトープの説明会を開催し、参加者4名には2～3束の稲刈り体験もしてもらいました。

9月29日（水）は棚田ビオトープの稲刈りでした。東京からの参加者1名と国際園芸アカデミーの教員・学生5名、計6名で作業開始。ザク、ザクと切るのはいいのですが稲を束ねるのが難しかったようです。午後は坂折棚田の鳥類調査（ラインセンサス）をしました。東京からの方とお話してみて「サービス業従事者の休日は、土日ではなく平日」であることに気づきました。一般的にボランティアは土日に設定されますが、平日もあればより多くの方が参加できるかもしれません。（相田 明）

## 大阪市中央区

### 大阪プロジェクト

#### 初めての獣害 ～マコモプロジェクト～



食べられたマコモダケ

棚田むすびの会は、大阪府の「遊休農地解消に向けた取り組み」の一環として、大阪府豊能町（とよのちょう）の棚田の休耕田を活用するプロジェクトを進めています。その開始から5ヶ月後の9月29日、「マコモダケが猪にやられてる!」と突然の知らせが入ってきました。休耕田の活用にあたり、農家さんに負担をかけないようにと選んだ、自生力に優れた「マコモ」というイネ科の植物。中華料理では高級食材として珍重されるといいます。そのマコモを棚田で栽培していたのですが、まだ収穫には早いと高をくくっていた矢先の獣害です。すぐに現場に向かいましたが、8割方はきれいに食べられており、収穫できたのはわずかに十数本でした。

棚田で初めて自分たちの力だけで作った作物が、いきなり獣害に遭ったのはショックでしたが、現実を身をもって知るよい機会になりました。そして、食べたのがたとえ鹿か猪だったとしても、荒れ果てていた棚田から「食物」を生み出すことができたのは、やはり大きな喜びです。この経験を活かし、プロジェクトが次に繋がるようにしていきたいと思います。（中崎 義志晴）



# みて、きいて、たべて 棚田を感じる

**棚田応援むすび販売**  
棚田米(新米)の「塩にぎり」を、味わってください。

これはうまい!



その他、貫井曜子や男声コーラス、  
各種体験コーナーなど見て参加して  
楽しいコーナー盛りだくさん!

物産・棚田情報がたくさん!  
**特産品販売・  
棚田情報コーナー**

11/13(土)  
パネルディスカッション  
『棚田を支える人びと』

11/13(土)  
野良着の  
ファッションショー



10/12(火)~11/13(土)  
東京棚田フェスティバル特別企画  
**棚田写真展**

**2010 11/12(金)13(土)** 入場無料/入退場自由  
12日 12:00~19:00/13日 10:00~17:00

棚田フェスティバル特設サイトはこちら → [www.tanada.or.jp/tanafes/](http://www.tanada.or.jp/tanafes/)

後援: 棚田学会/全国棚田(千枚田)連絡協議会 協賛: アストラゼネカ株式会社/株式会社 菱食

# 東京棚田フェスティバル

棚田がつながる、棚田でつながる!

会場

地球環境パートナーシッププラザ  
展示室・国連大学ビル中庭

(東京メトロ銀座線・千代田線  
半蔵門線「表参道駅」徒歩5分  
JR「渋谷駅」徒歩10分)



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に  
協力したい!」という会員によって自  
主的に運営されているNPOです。  
消えゆく美しい「棚田」をどのように  
保全していくことができるのでしょ  
う?一緒に考えませんか?ぜひ、私  
たちと棚田の応援団になりましょう!

会員に  
なると!

会報誌「棚田に吹く風」(年6回)やイベン  
ト案内お届けの他、棚田ネットワークが主  
催する各プロジェクト(イベント)への参加  
や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員  
維持会員 1口1万円(1口以上)  
一般会員 3,000円  
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただ  
ける、企業、団体、事業主さまを募集して  
います。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員  
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイ  
ズ)は法人会員さまのPRスペースとし  
て広告や広報にご利用いただけます。  
(詳細はお問い合わせください)

編集部から

期せずして  
生き物大特集に!

今回の特集は、COP10  
に絡めた棚田の生物多様性  
の紹介でしたが、トンボ少  
年瞬貴君の見事な会員レ  
ポート、人気コーナー「た  
んぼの生き物たち」を加え  
ると、期せずして生き物大  
特集になってしまいました。  
生物多様性の問題を考え  
るとき、代表的なサンゴ礁  
や熱帯雨林などは、結局人  
間がいなくなれば、解決し  
てしまう問題。突き詰め  
れば、人間にとつて夢も希  
望もないわけです(笑)。と  
ころが棚田を中心とした「里  
山」の問題は、人と生物が  
多様にわかりあい共生して  
いく、唯一人間にとつて希望  
の持てる生物多様性モデル  
といえるそうです。棚田と  
生き物、まだまだこれか  
ら盛り上がりそうですよね!

ホームページのここを見て!

棚田ネットワークHPIは、主要検索サイトの  
「棚田」で、ほぼトップにランクする優  
良サイトです!内容も盛りだくさん、今年  
はウェブ独自企画も計画中!乞うご期待。

百選以外の棚田  
全国には、百選以外の棚田もいっぱいあ  
ります。この頁では、主に保全活動が  
あったり、面白い特徴がある棚田を紹介!

『百選以外の棚田』  
全国には、百選以外の棚田もいっぱいあ  
ります。この頁では、主に保全活動が  
あったり、面白い特徴がある棚田を紹介!

[www.tanada.or.jp](http://www.tanada.or.jp)

棚田に吹く風

2010年11月号 Vol.73

発行 NPO法人  
棚田ネットワーク

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号  
Tel/Fax 03-5386-4001  
e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp

【今月の表紙】9月18日に開催された茂木岩ノ作棚田でのわくわく稲刈り体験。総勢38名が青空の下で汗をかきました。